

第6回新宿区次世代育成支援計画策定協議会

平成16年5月14日午後3時開催

筆筈町特別出張所会議室

1 開会

2 議事

- (1) 新宿区次世代育成支援計画（素案）への意見反映方法について
- (2) 地域懇談会の進め方について

3 閉会

午後3時07分開会

事務局 ただいまから第6回次世代育成支援計画策定協議会を開催いたします。

本日は加藤委員、鈴木委員が所要のためご欠席、日高委員からはあらかじめおくれる旨の連絡をいただいております。それで、汐見副座長につきましては、この会議に間に合うかどうかちょっと不明ですが、お仕事が終わり次第こちらに駆けつけるということでございます。

前回からの協議会でご提案のありましたメーリングリストはめでたく完成いたしまして、委員の方の自主的な活動という位置づけになりますあそこに書いてありましたように、それをご活用いただいて活発な議論ができればいいなというふうに思っております。メールアドレスをお持ちでない方には申しわけないんですけども、ファクス対応ということで適宜送らせていただきますので、また、ファクスでまたご意見ということも承りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日は、6時半からの次世代育成支援シンポジウムの方には座長、副座長初め委員の皆様には多大なご協力をいただきますということで、この場をかりて初めにお礼を申し上げます。

では吉澤座長、議事の方をよろしくお願いいたします。

吉澤座長 何となくしばらくでございましたよね。

場所もちょっと違うし、この照明も違うだなんてさっき言っていました、また違った意見の展開ができるありがたいなと思っております。

では、早速ですが今日の議事には2つほど挙げられて、あと、続いてというプログラムがございますけれども、まず第1の次世代育成支援計画、素案ですね、これをもとにしながらどういうふうに意見を住民の方々の、これから懇談会の意見もここに入ってくると思っておりますけれども、反映させていくかという方法について、ちょっと事務局からご説明くださいませんか。

事務局 では、事務局メモという策定協議会としての素案への意見反映方法についてのメモを、とりあえず話のきっかけとしてつくってみました。別にこれにこだわっているわけではございませんので、あらかじめお断り申し上げます。

意見を反映するという事についていろいろやり方があって、既に素案をご提示していますので、その項目ごとにいろいろ何回かに分けて議論をして、文章なりをもっと遂行したり、区民の皆様の気持ちが入るような形の表現ですとか、そういうものにしていっ

て、かつそこから事業の展開につなげるというようなやり方、そういうのも1つあるかなという、これが内容的なことの上ですね。素案の提案方法とありますけれども、素案の内容を検討し、文章等について修正追加提案をするというようなやり方が1つあるかなと。

もう一つは、素案は素案として非常に気になる点というのはもちろんどんどん直していくんですけども、それとは別に、せっかくいろいろなメーリングリスト等できて自由な発想で提案というような形もとれるように条件整っておりますので、重点項目に絞って将来像の実現のために今後具体化を検討すべきことを提案していくというような、すぐには多分実現につながるかどうかはわからないんですけども、少し長い目を見て、こういう動きをしていったらいいんじゃないかというような提案を幾つか出すというようなやり方もあるんじゃないかなというのが下の四角です。

具体化の手法という、それぞれについて、各人が個別に提案をしていただくというのとグループに幾つか分かれて何々グループみたいな形で多少そこで詰めていただいて、この計画策定協議会の中に持ってきていただくというようなやり方、個人的にそれぞれ提案して毎回持ってきていただくやり方、その2つがあるのではないかなというのが具体化の手法の右側の四角の2つです。

提案の内容をどうやって実現していくかということですが、予算等がかかわらないですとか、区民から動き出すというようなことについてはすぐできると思いますので、そういうものについては、協議会の方で検討して、庁内の会議の方に出して行って、それを実現していくということです。

それから、すぐにはできないこと。これにはやはり予算が非常にかかるものとか、手段につきましても、区が相当かかわっていて準備などを必要なものもございまして。そういうものについては、やはりもう一度庁内の中で実現性についてを、かなり検討しながら具体化をしていくということですから、計画の中には何年度に何ということは入ってこないと思うんですけども、それを庁内で検討していくということをもまず位置づけるというような、それで、この5年間のどこかで具体化につなげるというような手法をとるというようなやり方があると思います。それは内容によってやはりいろいろ変わってくると思っております。

それをパブリックコメントにかけます。パブリックコメントは、計画の中に書き込んだものを区民の皆様へ2週間から1カ月ぐらい、広くご提示してご意見をいただいて、それを最終的にどう反映していくか。最終的な段階、これがパブリックコメントというふうに

考えていただければよろしいかと思えます。

それで修正したものについて、最終計画案として持っていきます。

多少、一番上のラインで提案方法の1番の四角の一番上の四角の流れから言うと、それは素案の修正追加として本計画に反映していく。それから、下の四角、重点項目に絞って提案するということになる、この計画と同列に扱うのか、または別途、策定協議会の提案として章分けをするというような形が考えられるんじゃないかなというのが一番右側の真ん中の四角の考え方です。

それと、もう一つ内容的なこととは別に、形式的なこと、編集・レイアウト、見やすさとか、重点の置き方の構成、そういうものについて考えていただくようなチームをつくってもいいのかなと。それについては、その担当者のグループで話し合っていて、この協議会の中で検討し、庁内の会議にやはり振っていくというような形で、最終計画にまとめていきたいというふうに考えております。

これが一応私の方の事務局案ということです。

吉澤座長 これは今年度。

事務局 今年度の流れですね。

吉澤座長 ですから1年間ということで心得いただければよろしいかということですね。

事務局 ただ、最終の印刷とか校正とかがございますので、パブリックコメントは11月ぐらいにかけられればいいのかと考えています。

吉澤座長 皆さんがご自由にご発言いただく意見の反映の仕方ということの前に、ちょっと口火を切っていただくきっかけにということでよろしいんですね、ご説明くださったのは。

事務局 はい。

吉澤座長 確認のこともあってもいいし、いやこういうふうに考えているというご意見もあれば、ご自由に少ししていただけたら。

それとも、次の、これからの懇談会ですか、地域会議の進め方と関連はあると思えますけれども、どうしますか。一段落話してから。

事務局 とりあえず、じゃあ懇談会のこともちょっとお話しして。

吉澤座長 お話しくくださった方がいいかもしれません。

ぞうど。

事務局 来週からいよいよ懇談会が始まります。このねらいは区民の方と次世代育成支援について、議論し計画への提案等につなげていくことです。単に説明をして、質問を受け、

答えるという形ではなく、できれば、内容について皆さんで議論していただくというのがねらいです。内容によっては、そこに参加された方でまた別で集まったりしてもいいというふうに思っております。

2時間ありますけれども、当初 20 分ぐらいを説明に割り、質疑、やはり質疑の時間も必要ですので 30 分とり、懇談会という形で普通の説明会で教室方式ではなくて、テーブルを囲むような形で懇談会をしていきたいというふうに思っています。

この懇談会については、ただ、計画について漫然と話してくださいというような形だとなかなか議論がまとまっていかなのかなと思いますので、幾つか、例えば、この中でこういうテーマについてそのときに投げかけていきたいというのを、押しつけじゃなくて例として挙げていただいて、それに集まった方で、じゃあこういうふうに今日はこの内容についてやっていこうみたいな形でやっていく、それをこちらの計画の中に反映させていくというようなやり方の方が、ちょっと筋が見えやすいのかなと思ひまして、このように提案しているということでございます。

下の後は策定協議会委員としてご出席いただく方と区の職員で出席する者について挙げているものでございます。主に、今日は上のどういう形で進行していくのかということについて打ち合わせをお願いしたいと思っております。

吉澤座長 ありがとうございます。

両方含めて、今日はもう自由な発言でよろしいでしょうか。

事務局 そうですね。多分計画にどうやって反映させていくかということがこっちにかかわってくるということだと思います。

吉澤座長 だから両方やってないと、あっちこっちで区切ってやることではないですので、どうぞ自由な形のご発言をいただければと、こういうことでしょうか。

事務局 今日はこういう形で私たちも輪の中に入れていただいて一緒に話していきたいと思ひます。

吉澤座長 でも何人ぐらい予定しているんですか。

事務局 一応 40 名ないし 50 名入れる会場ですが、申し込みとか取っているわけではありませんので、通常の区の説明会ですと 10 名程度とか、その辺のが多いですね。ただ、ちょっと……

吉澤座長 検討がつかない。

事務局 つかない。

吉澤座長 そうですか。

事務局 はい。

吉澤座長 そうですか、わかりました。

ちょっとそういう形式なことでも何でもいろいろ出されればイメージがずっと懇談会もわいてくるでしょうし、そこら辺でどんなことが話せるであろうかという皆さんのまた中心課題ですか、これも頭に出てくるかなというふうな思いがいたしますので、どうぞ自由に。今10名、多くて20名。

事務局 逆に50名とか来てしまったらこういう形は実現できないですね。逆に私としては多少少ないという前提でこういう懇談会という形ができるのかなというのもございます。

吉澤座長 でも想像があるのかと思ひまして、イメージというか、大体こういう地区でおやりになっているときの状況があるかなと思ったので今伺ったんです。50人も来ることはないでしょうか、こう言っちゃいけませんね。

事務局 下の3回は「区長と話そう新宿トーク」といって、一昨年までは「区長を囲む会」という名前だったんですが、昨年から名前が変わりまして、やはり地域センターでやっているんですが、下の3回は広報課主催の「区長と話そう新宿トーク」と共催になりまして、そちらは区長出席するんですが、そちらは昨年子育てで2回やりましたけれども、やはり50名近くは来ていました。

吉澤座長 区長さんが出るということで。

事務局 それはほとんど区長が直接答えるというなかなかない機会ですので、人も多いのかなと思っています。

吉澤座長 そういうのもちょっと参考までに頭に置いてということですね。

ではいかがでしょうか。別に名指しいたしませんけれども。

これはほとんど読まれているんでしょうか。こういう出席する人は読まれてくる、この懇談会に。

事務局 中身全部については、それぞれにお配りしているわけではないので、いろいろな施設に学校、幼稚園、保育園、出張所、社会教育会館に置いてありますので、見ようと思えば見てこられる。あとは、概要版はお配りしていますので、理念のところとか、どんな事業があるのかというようなことはわかっていらっしゃると思います。

吉澤座長 はずですね。

事務局 またそのときにも概要版は配ります。概要版はお配りしますので、そこで見ながら

話すということもできます。

合澤委員 よろしいですか。

吉澤座長 はいどうぞ。

合澤委員 これはたまたま近くの保育園で窓口に置いてあったんですね。それで私も今日関係があったので多分父母の方はこれを持ってお帰りになると思うんですよね。どなたでも持っていったいいと置いてあったから。

吉澤座長 保育園ですか。幼稚園。

合澤委員 保育園。

吉澤座長 保育園ですか。

合澤委員 だから保育園とか、ほかのところはちょっと見ていないんでわからないんですが。

事務局 児童館でも配っていますし、保育園も。

合澤委員 関心のある方はこれを取ってお読みになると思うんですよね。

それから、これを配るときにいろいろな団体でどうかなと思ったので配ったんですけれども、やはり子育てを終わった方は余り関係なくて、つながりじゃあ顔を出すかというような感じだから、そういうお母さんとまた全然内容が違うんですが、だからこれは多分参加なさる方は読んでいらっしゃると思いますけれども。

松永委員 夜になると読むんですけれども、雑誌なんかいろいろな声が上がっているんですけれども、皆さん昼間の時間帯は、なかなかお忙しくて……

吉澤座長 出られるかどうかわかんないという。

松永委員 というか、「ああごめんね、この日はそろばんの関係が入っているから」という感じで言われる方も多かったりとかして、あと、ちょうど学校から帰ってくる時間帯。

吉澤座長 時間ですね、2時からということは。

松永委員 というのがあったり。

金澤委員 出たくても出られないという。

松永委員 私、思ったんですけれども、やはりこれからもそうだと思うんですけれども、今地域コミュニティということで、これからの地域協議会の準備とかも出てくると思うんですけれども、この次世代について。そういったときに、やはりじゃあ「今日日高さんお子さんどうしている」というふうになると、きっとこの2時間、お留守番、まだ小さくっていらっしゃるけれども、お留守番をさせて。ちゃんとお留守番ができるように育てた日高さんはすごいと私は思っているんですけれども、うちなんかまだ到底ちょっと危なっかしい

かなと。やはり子どもだけで家に置いておきたくないというご家庭もいらっしゃると思う
んですよね。託児というのも、もちろん必要で、思ったんですけども、これからそうい
う地域力だと言って子育ての人たちを地域の中でまとめようとするときに地域に出してく
る方法がやっぱしないんだなって、「もう子どもが帰ってきちゃうから」、「夕方は、終末の
夕方だったら出やすい?」とか言うと、「いやパパがいるときなんてとても夜出られない」、
あと姑さんとかがいらっしゃる、「夜私が出るなんてとんでもない」、よっぽど学校の大
事な用でなければお願いしますとは言えないというのもあるから、それこそ保育ママさん
みたいな、これからそういう地域をますますやっていくには、「じゃすみません、今夜お宅
に見ていただいていたいいですか」と言えるようなコミュニティづくり、そうすると初め
て子育てする人たちが地域に出てこられるんじゃないかなと思ったんです。だから……

金澤委員 むしろ、松永さんおっしゃったように、出てきたくても来れない人がいっぱい
いるという、でもその来れない人の声を聞きたいんですよ、本当はね。私たちはね。だっ
てどうしたら出てこれるかということでしょう、結局ね。それを知りたい部分もあるでし
ょう。だから、その意見をどうやって吸い上げるかよね、やっぱりね。

松永委員 だから、これがきつとこれからの次世代の地域力をみんなでまとめ上げて、みんな
で育てようという方向性にもきつと大きく出てくるのかなって。父母会一つにしても、み
んな四苦八苦して出てきたりとか、やっぱりよそのお宅に夜預けるというのはやっぱり気
が引けたりとかしますし、子どもだけで夜置いておくのもかわいそうだしとか、いろいろ
すごく、例えば父母会もありますよね。いつやったら一番出席率がよくなるかアンケート
をとったりすると、本当にばらけるんです。ああいう手助けがあったら出てきたいです
かと言ったら、託児はやっぱり余り人気ないんです。近くの部屋で預ける。夜もなんか近所
で見ってくれる人がいたら、その方がいいという、アンケートをしたらそういうのが出てき
たりとかしているんで、そういった方策も含めて懇談会の中でお母さんたちがどうやっ
たら、お父さんたちがどうやったら地域に出て来られますかという提案を一緒に考えてい
けたらなと思いました。

吉澤座長 どうしたらいいですか。

松永委員 合澤さんがお義理でいらっしゃるとおっしゃっていたけれども、でも合澤さん
年代のおばあちゃまと言ったらまだすごく失礼なんですけれども。

合澤委員 でもそうなんですよ。

松永委員 お孫さんがいらしてね。

合澤委員 いろいろなところに入りにできるので。

松永委員 そういう方たちがきっとたくさんいらっしゃるだろうから、その方たちとね。

合澤委員 そうですね。それとPTAでも一応学校に入りにしていますけれども、PTAでもやはり子どもが帰ってくる時間はもう会議をやめるんです。やめるというか、よほどのことがないと。だから、この時間帯になって果たして……、やってみなきゃわかりませんが、条件をつけて、例えば、託児みたいなものをしたりとか、何かそういうことをしてきてもらう以外に、もう完全にというわけにはちょっと不可能ですのでね。

事務局 ちょっといいですか。

今、時間帯のことを問題になっていますけれども、今回は、10回はこういうふうに設定しておりますけれども、ここの協議会の中でほかの時間に、例えば子ども家庭支援センターに調査に行ったときのように行っていただくとか、そういう企画していただくのは、大歓迎です。これは、区の説明会、懇談会を行うに当たりましては、区内10カ所ですべてのところ、一応時間帯を変えながらやるということで最低限の私どもの努力ということでございますので、それ以外のことはどんどんやっていただければと思います。しかし時間帯については、申しわけないですが、設定しておりますのでよろしく願いいたします。

吉澤座長 そうそう、それはそうです。だけれども、ただね、これからの問題が今出てくるわけでしょうから。

事務局 ですから、そういうものについてはいろいろなところでやっていただければいいと思います。

合澤委員 そのときにアンケート的にでもどういう時間帯が一番出やすいのか、そういうのを聞きしてもいいですよ。今後のいろいろな打ち合わせを。

金澤委員 あのね、昼間やると出られないから夜やってくださいと言って、今度、夜やると、やっぱり出てこれない人が、どの時間帯をやっても結局ばらばらなんですよ。だから絞り込めないですね、やっぱり。みんな生活のパターンがあるから、だから来れない人の意見をだれかが聞いてくるとか……。

吉澤座長 方法ね。

金澤委員 方法を考えて、時間はもうしょうがないから、そういうお友達なんかでも来れない人のいろいろ何かメモってくるとか、何かそういうかたちでやるしかないですよ。

松永委員 例えば、近所の方とかにそういう働いているお母さんたちは何時が出やすいとか、じゃあ小さいお子さんがいる。そういう中できっと地域のネットワークづくりの方法も見

えてくるかななんて。

吉澤座長 今のお話は、今、ご説明くださったように、皆さんが懇談会に行くときにちょっと一つそういうふうなことはテーマになるかもしれませんね。反映の仕方というのはこういうこともあるんでしょう。ああいうことああいうというふうなことに皆さんがまた参画しながら、まして反映の仕方の一つだと思います。意見の反映の仕方だと思いますけれどもね。どこでやっても時間帯はみんなどこも同じですから、私、思うに。違う地域でやっても。

今、知人の方の意見を出られる人が聞いてくるとか、何かそういうくせがつくといいんですね。くせがつくというか、そういう状況をどうやってつくるかという課題もあるかもしれませんね。

金澤委員 それで、行けないのは、聞くでしょう。聞いて「わかった。じゃあそれね、意見反映するように伝えるわね」と言うのはいいんだけど、その後の報告がないと続かないんですよ。やはり「こうだったわよ」というのをまた言ってあげないとね。それで、また吸い上げられなくなってしまう。私もそれで何回か失敗したことがあるんですけども、やはり、どうなったかじゃなくてその過程をやはり報告してあげるのも私たちの意見を聞いた人の仕事の1つかなとも思いますね。そうすればまた言うってくれるから。そうするとだんだん運んでいく、進んでいくから。

吉澤座長 私は、返事はメモしてポストに入れておいてあげる。

金澤委員 ああそうですね。

吉澤座長 大変なことをやっているんですけども。そうすると「悪いから今度は出るわ」と、悪いからというのが出てくる。何かそういうくせと今言ったのは、大変通常的な言葉ですけども、そういう一つのコミュニケーションの場になる。悪いからというのも、悪くないわよとか言いながらだけれども、そういうことが出てみるとじかに聞くと違いますねという問題が出てまいりますからね。それはもう全く日常的な細かいことになるけれども、でもそこら辺を工夫するのも一つの反映ということですね。

今、お話もいろいろ何でもいいですよなんて申し上げたけれども、第一に挙げた計画への意見反映の方法ということですが、これは住民の人たちの方法の1つが出てきたなど。ここでもそうでしょう。この委員会の反映、または検討の仕方が出てくるわけでしょう。さっきのお話そうですね。ですから、この辺でそういうご意見もあったら、一応参考にすれば個別的なのとグループというような話もちょっと出たけれども、その辺の課題もど

うぞ、ごちゃ混ぜでいいですから、後で整理をしますから、何でもしゃべっていただいた方がいかなと思っていますけれども。

松永委員 例えば、この 10 回の中で、ここにテーマをもっと懇談会にということが書いてあったので、素案の中に柱がありますよね。それを例えば.....

吉澤座長 柱ごとに。

松永委員 柱ごとに場所と来てくださる方と、もし合わなければきっとだめなのかもしれないんですけども。

吉澤座長 という話は、この協議会のこれからの進め方で反映させるのにテーマごとというお話ですね。

松永委員 それも含めて 10 回の地域の方でもそういったことが、どうなのでしょう。

吉澤座長 ちょっとそれ地域によってわかりませんよね。でも、地域の特色というのはここに書かれているから、これだとこんなことがあるんじゃないかと想定でするときもあるし、2 時間なら 2 時間の前の 20 分ぐらいを少しがやがやとしゃべっていただいで、そこから、こういう課題とこういう課題で今日やりましょうかというやり方もあるんでしょう。だからその辺は出たところ勝負というのも多少あるのかもしれないね。

事務局 集まった方のお子さんの年齢層だとか。

吉澤座長 そうです。だからそれによっても違ってきますから、ちょっと.....

事務局 種を幾つか用意しておいて、そのときの皆様で、雰囲気というか、皆さんに投げかけて、じゃあそうしましょうということで合意して始めればいいのかと、1 つは思っています。

吉澤座長 私、言葉悪くて出たところ勝負と言って申しわけないけれども、やっぱりそういうことである。こっちが決めていってやるとおもしろくないということもありますね。

事務局 場のやはり雰囲気を読んでやらないと。

吉澤座長 どうぞ。

渡邊委員 この策定協議会の会議の方法というのと、懇談会のすみ分け的な部分というのは、この懇談会で出た意見を、時系列の部分で見て、そのテーマについてはこちらの懇談会ではやったと、策定協議会での意見反映にはそれがどのような形で減らせるかという部分をきちんと整合性をつくっておかないとばらばらになってしまう可能性というのものもあるのかなと思うので、そのスケジューリング的なものもあらかじめつくっておいた方がいいんじゃないかなという気はするんですけども。

吉澤座長 例えばというのはありません？ こういうふうにしたらというの。

渡邊委員 まあ、策定協議会の委員会の会のスケジュールと懇談会のスケジュールリングを合わせておいて、テーマはそれ幾つか用意した上でその中が当日選択されるものは何かにもよっても変わってきてしまうのかもしれないんだけど、大体こちらサイドでも、このテーマについてこの日は協議しようというのをつくって、あらかじめできるものじゃないんですけども、そういう必要性というのものもあるんじゃないかなという気はするんです。

小林委員 毎回、漠然と話すのではなくて、ある程度、こうしていかないといつまでたっても漠然とした全体的な話に終わってしまうので、今、渡邊さんの方から出たように、ある程度こっちの協議会の方でも。

金澤委員 ずれそうになったらそっちへまた戻すような感じでしないと、話がね。

小林委員 懇談会で来た話でもってそういうふうに言われたから、今後、じゃあどういふふうに反映してくかということをやっぱりちゃんとしていかないと、聞きっ放しで何のために聞いたかわからなくなってしまう。

吉澤座長 それはみんな心がけていかなきゃいけないですけどもね。

松永委員 素案に対する、あくまでもこの素案の内容ですよ。

吉澤座長 はい、だと思えますけれども。でも関連でいろいろな物が出るかもしれませんが。それはそれなりに。聞いた後で整理をしなければならぬという課題があると思えますね。

そうすると、今ちょっとお話が出たのでは、これの目標、目標別とおっしゃったの？松永さん。これ、目標別、テーマ別とおっしゃったの、目標ですか。

松永委員 こういう模式図の柱ありますよね。ああいう項目の中で選べるのが選びやすいかなという。

吉澤座長 何ページですか。初めの方のですか、いろいろなのあるけれども。2ページとか3ページじゃあないのね。

松永委員 いやもうちょっと後ろの。

吉澤座長 16ページ、施策ですよ。

事務局 施策の体系の。

吉澤座長 だから16ページですか。これはでもあれでしょう。どこの地区でどれというものにいかないでしょうね。

松永委員 いかないでしょうね。

合澤委員 皆さんが聞きたいことというのは、やっぱり絞ってどこでも扱わないと、じゃあここで聞いてあちらに行くという、やっぱりそれもないとよほど関心というのはどうしても聞きたい、話したいという方が何力所かいらっしゃるかもしれないけれども。だからこの素案について大体読んでいくとテーマが出ていますよね。そういうことから入って行って、そして、それに対して皆さんの意見を聞いて、それからいつも書いてそうで、その他のところで皆さんの意見が出れば、それはやるかやらないかというのはさっきもおっしゃったように、いろいろなかかわりが出てきますので、それと分けていかないと、みんな聞いていることをそこでやってしまうと、何回やっても、逆に参加していた人たちも、今日は何で来たんだらうということになっちゃいます。何か1つでも自分でテーマをわかって帰られると、基準点があるから難しいですね。だからこの素案の中から、読んでみると大体皆さん関係ありますから、その中で絞りながら、初めからぼんとぶつけるんじゃないんですけれども、やっぱりじゃあどういふのがあるのかなという、ある程度やっぱり魅力あるという変ですけれども、テーマが載ってないとただ漠然とはいきませんよね。と思うんですけれども。

吉澤座長 すみません。何を入れて話してもいいとちょっと言いましたけれども、ちょっと絞らせていただいて、この策定協議会がどういう形で反映されているのか、ちょっとそちらに今焦点当ててみてくださいか。

今、実際に懇談会の話も出てきたり、それは関係あるんですけれども、こっちがはっきりしないと、懇談会に行ってもいろいろ意見が出てきて、整理の仕方がちょっと人によって違ってきちゃうといけないから、ここでコンセンサスはやっぱり得ておいた方がいいんじゃないかなという気は一応しますけれどもね。そこから、今、渡邊さんのおっしゃった、どういふふうにすり合わせるかという課題も出てくるんだらうかなと思いますけれども。どうでしょうかね。皆さんお読みになっているはずだから、この辺で、これはちょっともう少し力を入れないといけないんじゃないというのをちょっと出していただきましょうか。

庁内での話し合いの中で、ポイントになるようなものはありますか。

事務局 こうなっちはまだちょっと庁内の方は1回も開催しておりません。こちらの、地域懇談会等の内容を踏まえて、協議会の案を庁内の会議の方にはフィードバックしていくということですから、今はシンポジウムなり、懇談会、地域にどうやって出ていくかという準備段階ですので、そういうものはないんです。

吉澤座長 ないですか。

事務局 はい。これそのものが考え方です。

吉澤座長 ちょっと何か欲しいですね。ここに柱を。柱立てになっていますとおっしゃるけれども、その中によく強調できるもの、それから関連して1つのことを言っても関連できるのももちろん関連性があるわけですから、これは中心になるもの、いかがでしょうかね。

合澤委員 会場の中心点は子育てで若い方と言ったら変ですけども、これからそういう方がやはり具体的に内容を見ますと関心ありますよね。子育て、それから、そういうところがあるので、それともう一つは、やはり子育ては終わったけれども、何か側面から協力しようというそういう形に分かれるんじゃないかなと思うんです。だから、やはり一番大きな問題は、これは個人的考えですけども、これから子育てなさる方を中心にテーマを絞りながらやっていかないと、漠然と出してもと思うんですけどもね。どうなんでしょう。一番問題はそこなんですよね。

だから、この前、何かで読んだときには、これに載っているのかな、何かアンケートの中で、「じゃあ子どもを生めということなんですか」ということ言葉が出たのをちょっと読んだんですが、極端に言えば、やはり真剣に考えて、現場で今直面している方は、そういう問題ですよ、言葉としたら。だからそれからそれはじゃあこの区ではどういう感じという、そういうものを自分でやっぱり理解しながら、そういった、今日私は持ってくればよかったんですけども、読売か何かで、全国でやはり少子化のことで作文を募集しまして、私それにしていたら、送ってきたんです、入選された方のを。やっぱり子育ての中では皆さん、4人くらい載っていましたが、要するに、自分は子どもを育てたいというのも社会情勢、自分も働いている。家族の協力が無い、ただ会社の仕組みが、何かそういう皆さん結果的にはそうなっちゃっているんです。だから、皆さんいろいろ現場的にはあるけれども、突き詰めると、やっぱりそういうところになるんじゃないかなと思うんです。だから区の方でその中の社会的なものを何とかと、ここにもさっき出ていましたけれども、会社の方でも新宿区の場合は何かそういうことが書いてありましたよね。協力する会社に対しては何かやっぱりそういうのがあって、そういう形が含まれているから、結局、話しているうちにそこまで行き着くんじゃないかなと思うんです。だから、書いてあるのを大体一倍どこを出せば、食いついてというのは変ですけども、何かそういうもとを出さないと、幾つも出してもと思うんですけどもね。言い方が下手なんですけれど

も。

事務局 今、どちらかというと懇談会にまた戻っちゃっているようなあれなんですけれども、この理念として子育てコミュニティタウンという、子育てしやすいまちにしたいという、それは前も汐見先生もいらっしゃったときにこのパーセンテージを次の調査のときに上げていくんだみたいな、目標にしようみたいなところを皆さん話されていると思うので、だから子育てしやすいまちにするのはどういうところなのかということをお皆さんで話し合っただけであればいいかなと。そのためには、まずどんなところが子育てしにくいのかということの意見を出していただいて、全部そのときにはできないでしょうから、その中で、気は何かに絞ってそこで建設的な話し合いになるような形にしていくと。それで計画策定への対応の仕方は、ですから皆さんでどういうふうに、それぞれを見ながらここをこういうふうに変えていくというふうに、改造をしていくのかという視点からいくのか、これはこれとして前回のときもほぼいいでしょうという申し入れがあるとすれば、区民の方からまたあればそれはもちろん変えていくんですけれども、策定協議会としては、ほぼこれはいいんだということになれば、ここで足りないものを策定協議会として提案していくんだみたいな、積極的に打って出るみたいな案を出していただく。そういう夢を語れるような場になって、計画の一部にそういうものがあってもいいのかなというのを私は考えています。

吉澤座長 はいどうぞ。

小林委員 結局、子育て支援と言ったときにぱっと見ると、要するにサービスの部門と物理的に施設とかあるいは環境、要するに物理的な面と要するにサービスの部門というふうに分かれるんじゃないのかなと思うので、そうすると全体を、例えば、サービスの人材派遣したいとか子育てのというサービスの部門と、例えば、環境づくりをしていかなきゃという部分、それが環境づくりの場合は公園を整備するとか、何とかというふうな物理的な部分というふうに、ある程度整理をしてしまう、そして考えていくというふうな考え方のアプローチとして。というのは、見ると大体、例えば利用しやすいサービスのすべてはどうするかとか、あるいは子どもの心を豊かに育てるためにはという、要するにサービスの部分とあと家庭環境をどうするかとか、都市環境をどうするかというふうな話なので、話をそういうふうに整理して、サービスの部分をここまで到達するようなサービスをしていくためにはどうしたらいいとか、環境はここまで、例えば、公園だったら公園をこういう公園をつくるというところまで行くのを目標にするとかというふうにしていけばどう

かなと、ちょっと、今見ていて思ったんですけれども。だから、ちょっと、ひとつ……

吉澤座長 ソフトとハードというか。

小林委員 ええ。だから、少しこういうふうになにか道筋になるものをしていかなければ、やっぱりどこまでも漠然と、夢だけ語っても、それが実現するためには。実現可能な……

吉澤座長 だから夢ですけれども。

小林委員 だからその辺を、やっぱり具体的にしていけないと物事って成立しないから。

例えば、夢があるんだったらそのためにというところも、やっぱりその辺をどういうふうに、私たちの意見も集約していくかということはどうしたらいいのかと。

事務局 この前四谷の会的时候には、父親の子育て参加というものが弱いんじゃないかという話がある男性の方からいただきました。だから、例えば、前回のこの会議では、この計画はやっぱり中学生以上、青少年の方が弱いんじゃないかとか、幾つかご指摘されているところがありますから、そういうことに関して、じゃあ提言していくというような形でもいいのかなと。

小林委員 そうすると具体的なことに対して、逆にそれだったら、これはこういう方向に持っていきたいというふうな、例えば、今の父親のそういう意見が。

事務局 案を出すとか。こういうことをしたら父親はもっと参加していくんじゃないのかという、いろいろなアイデアを出していただいて、その実現可能性を突き詰めていくというような。それとか、やはりこの中でどうしてもここだけはすごい大事だと思って興味があってというところがあれば、それも含めていくというような、これだけではまだ不十分だから、さらに踏み込んでこういうことをしたらどうかというような、要するに行政だけで考えていても、ある程度、逆に先に限界をつくってしまうところがありますから、そうじゃないんじゃないのという形で区民の方の意見としてまとめていただくという。それはもちろん実現性がなければ意味がないことですから、すぐには実現できないけれども、実現可能なものを提案していただくというような形でこの中にメリハリをつけていくというのも1つのやり方なのかなと思いますね。

吉澤座長 はいどうぞ。

金澤委員 私は前回のときに話して、これはすごくよくできていると、皆さん大体。新宿区はすごくサービスもいっぱいあるじゃないかと、それで、そのサービスをどうやって伝えるかということがある。それで、私もちょっと見ていて、利用しやすいサービスがあるし、でも地域の力も借りたい、そうしたら何がいいのかなと思ったときに、本当に私は小さな

発想なんですけれども、ピーポの家って皆さんご存じですか、ピーポの家って、いつでも子どもが危なかったときに駆け込める、そういう感覚で、どこか、この間も出ましたように、暇な人じゃないけれども、何かそういう人をどこかに柱に、地区に置いておいて、子育てで忙しくて表にも出られない、でも情報が欲しい。そのときにその人のところにアクセスすれば、「ああじゃあ調べてあげるわね」と連絡をくれる。「どこかに行きたい。でも、今、子どもが」、「じゃあ見ていてあげるから、あんたが行ってらっしゃい」とか、「じゃあ、あなた、私が行ってあげる」とか、何か地域にそういうおばさんでも何でも、若いお母さんでもいい、何かサークル、何か置いて、それが全体、新宿区に何個かあって、常にそんなに近場にいる、新宿区ってすぐそばにそうやって助けてくれる基点がありますよみたいな、そういうのをやっていったらすごく若いお母さんたちは助かるんじゃないかなとふっと思ったんですよね。子どもも、別に「いい？ おばさん、お母さん帰ったらいないんだよ」と言ったときに行かれるような、「じゃ家で待ってなさい」とか「じゃ、あんた児童館に行きなさい」とか、何か、この間も言ったように暇で何かやる気のある人を見つけて拠点を置く。このセンターごとでもいいですね。出張所単位でもいいから、檀の出張所単位では5人はいるとか、筆筒は何人置いておくとか、そうやってそれを新宿区全体で何かもっと行政の方でも力を貸してもらえれば何かお手伝いできるようなところがあればやるみたいな、ちょっと小さな発想だったんですけれども、そういうのが必要なんじゃないかなと、子育て中のお母さんにはね。必要じゃないかなと思ったんですけれどもね。手足になってあげられる。

松永委員 例え、そうですね。そういう提案とこの懇談会に来て、こういう素案があって、皆さん対応がある。新宿区にはこれだけの子育ての要素がありますよということ。それをどういうふうにしたら、今まで私たちが対面調査とか出てきたことというのは、それがうまく使えないというのが一番感じたことだったので、そういう感じを私たちは受けているわけです。じゃあ皆さん、こういった利用をする施設であったりとか、こういうのは要らないからそのかわりにこういうものがあつたらいいとかというところの柱で話をしていく。それでその上で、それを、例えばどこの会場でもテーマに据えておいて、さっき渡邊さんがおっしゃった、ひとつやっぱりテーマを決めておいて、すり合わせる。終わった後、じゃあこの会場ではこうだったけれどもというのを出して行って、このスケジュールの中でメーリングリストも立ち上げていただいたので、ご報告しながら、委員の中で意見交換をしたりとか、渡邊さんがおっしゃるようにスケジュール的にどうかというような、定例

委員会を……、定例じゃない特例委員会を私たちの中で……

事務局 今年度は別にいついつって決まってないので、あわせて設定していただいて結構です。

松永委員 構わないということですか。

吉澤座長 だから今日は出発点でいいんですね。やっぱりスタートラインに立っているから、今年度1年間どうしていくかというのが、ここで、この協議会もそうだし、それから懇談会も、これ懇談会だって1回じゃなくて続けたっていいとおっしゃってましたね。

事務局 ええ、同じ地域で、もっと集まりたいということであれば。

吉澤座長 それでどんどん育っていけば一番いいということもあるわけですよ。

松永委員 だから、基本はさっき吉村さんが教えてくださった子育てコミュニティというタイトルに、コミュニティをつくるためにこれだけの要素があったんだけど、もしかしたらそれが機能できてないから、今お母さんたちは大変なんじゃないの。だから、お母さんたちが子育てする上で甘えていいんだよという方法をお母さんたちが利用できる、どういうふうにしたら利用できると思いますかという投げかけ、これだけいろいろなことがあるんですよというのを投げかけた上で、そうすると素案の中身との整合性も出てくるし、いいのかなと。だからまず最初に設定していただいた懇談会では、それをテーマにまず投げかけをして、そこから広がって、その後また小さなグループワークの方。

吉澤座長 それは懇談会の方ね。

松永委員 うん。で私たちが、これを一通りやると見えてきますよね。その中でグループ化されるとか。

吉澤座長 じゃあ逆なのね。懇談会にみんなが行ってみて。

松永委員 要するにどちらも、どっちでもいいと思ったんです。

吉澤座長 ああそう。

松永委員 どっちが先に行ってもいいのかどうか、その辺は皆さんにお考え……

吉澤座長 だから皆さんに出し合って、どういうふうに決定しましょうかということなんですから、今のご意見は逆というわけじゃないけれども、懇談会をやってから考えましょうという感じでしょう。

松永委員 ええ。

吉澤座長 さっきは、こちらで大体見当をつけておいて懇談会に行きましょうということ、ちょっと違うんですね。

松永委員 違ってきますね。違ってきちゃったんですけれども。

吉澤座長 まあいいですよ出してくださいれば。後でちょっとその辺の皆さんのご意見もちょうだいしていきながら決めていけばいいですから。

はい。

合澤委員 理念のところもあれですけれども、やはり現実に基本目標というのを、これずっと見ていますと、皆さん関心あるんですよ。だから大きなテーマをとって、それに対してのあれはまた後ろのページにも具体的にある程度出ていますよね。ここまで出ている。これからはこういう形でというようなことが出ている。やっぱりそれとつながっていかないと、書くのは別ですよ。懇談会へもっていくときに、それとつながっていないと、やっぱり参加なさった方はここまでわからないから、ここからまた戻っていくといろいろなことが出てきますから、プラスになる面もありますけれども、やはり懇談会を主催なさる方はそういうのを頭に置いておかないと、せっかく集まっていたのが、この段階の前の時点で終わるのではもったいないから、そういうのを踏まえて、うまく演出しなきゃしようがないかなと。

それとさっき出ました、ピーポの家とか、ああいうことはやっぱり地域で子どもたちが安全に暮らせる、地域の人、そういうことの部分に出てくるから、さっきの話の中で、こういうことを実際にやっているという、警察も入っていますけれども、ああいうことを話していけば話はここまで行くんじゃないか。これからまたこうしてほしいというような皆さんの意見が出れば参考的に聞いてくるというような、知っていることは現実こうやっているということはやっぱり説明した方がいいんじゃないかなと思うんですよ。だから、これどうなんでしょうね。これが基本的なものをうまくテーマをこんなのを持ってくるかは別として中身はそういう形から入った方がいいんじゃないかなと。

吉澤座長 懇談会でしょう。

合澤委員 懇談会の話。

吉澤座長 それはまた具体的にいただく時期があると思いますけれども、今、ちょっとここでどうするかというのを考えてくださいますって、私、申し上げたんです。

松永委員 いいです。後で。

吉澤座長 後じゃない、どうぞ。

松永委員 いや、また懇談会の話に戻っちゃうんですけれども、司会は吉村さんと山崎さん。

吉澤座長 それは懇談会の。

松永委員 ええ。

事務局 どっちでもいいです。

吉澤座長 それはそのときで何とかなるんじゃないですか。今決めなくても。

松永委員 説明とかはどうなんですか、ちゃんと。

吉澤座長 説明は行政の方でしてくださるんでしょうし。

それはそのときの状況でもって懇談会の進め方になると思うんですけども。それよりも前に、逆も今おっしゃったようにあるけれども、とにかく協議会として、少しどうしましょうというところにちょっと焦点を当ててくださいますかと、さっき申し上げたんです。

事務局 素案の前の最終案を出したときに、幾つか。

吉澤座長 挙げていました。

事務局 ご意見いただいて、ここには反映できなかったものがありますよね。それで、例えば、経済的支援のところの評価の仕方とか、そういうことで、やはり個々にこれは気に入らないというようなことがあると思うんです。そういうことについて、深くやるのか、それはそれで、これは大体不満なところもあるけれどもそのまま置いてやるのか、置いておいて違う、ここで足りない具体的な提案を打ち出していくのか、そのどっちかなのかなと思っているんですけども。どちらかちょっと、どっちがいいと思われるのかなというのが。

吉澤座長 皆さんのご意見。

小林委員 先ほどから情報という話。

吉澤座長 伝わり方ね。

小林委員 おおとい三鷹の方に私と区の方と一緒に三鷹の方に行きまして、ちょっと話を聞いてきたんですけども、そこでまちづくり三鷹とかという株式会社が、市と民間との間に立って株式会社があるんですけども、そこで、子育てサイトをやっているグループの会議にちょっと立ち合わせていただいたんですけども、三鷹市の場合はITがすごく進んでいると言った方がいいのか、割と、社協にパソコンが割と何台も置いてあって自由に使えるようになっているということがありまして、ある子育て世代の親たちがメンバーをつかって、一番最初はパソコンの使い方から始まって、その人たちをまとめて、その人たちが子育てサイトをつかって、そこでいろいろな情報を発信できるようにして、それが市の中のサイトの中に組み込まれていて、そこは結構だれでも書き込めるようになって、かなりの情報発信状況になっていて、結構書き込みも月かなりの数あって、やっぱりアクセスしている人もかなりの数。要するに1万とかというふうになっているのを見ると、そこ

までITが市民全体に行き渡っていけば割といいのかと、そして、その管理も子育て中の親が管理していて、毎日見て、ちゃんと整理もしてというふうなことをしてあるのをちょっと現実に話を聞いてきまして、4年目になるとかと言っていましたけれども、そこまで例えば区がやる気があるのかどうかというふうなところもあって、だから、例えば、子育て支援センターがあって、そのの広場事業の入り口にはちゃんとパソコンが置いてあって、そこに行けばそのサイトも見れるようになっているみたいなのところがあったりして、そうすると割と情報の欲しい人は、パソコンで情報は得て、現実にかなり活用されているというのを見てきますと、今、情報が、なかなかいろいろなところで伝わらないというふうなところは解消されるかなというふうには見て、すごく関心して帰ってはきたんですけども。だから、その情報の伝え方、伝わらない人にどう伝えるかというのを、そこまで要求していけるものなのかどうかというところが。

吉澤座長 はっきりしないと何とも言えないと。

合澤委員 そう、何とも。

吉澤座長 ということらしい。

はい。

渡邊委員 あれですよ、区のホームページに掲示板みたいなことを入れて、子育てのところにあるじゃないですか。今日もちょっと見ていたんですけども、あれお二方ぐらいしか使っていないですよ。非常にもったいない気もするので、そういう部分も補えたらいいんじゃないかなというふうな気がするんですけども。僕らは仕事でパソコンを年がら年中使っているんですけども、一般の家庭のご婦人方がどの程度そういうネットで情報交換をされているかというのも非常に興味があることではあるので。

小林委員 だから、最初、編集にかかわる人たちは、ほとんどできない人たちでパソコンの講座をしましょうという形で集めて、それこそ個人差がすごくあったので、少しその人たちをある程度できるようにまで育てて、その人たちがサイト経営して、それを市から委託されて、NPOにまでしてしまっ、そこに市からサイトをつくるというお金を支払って、その人たちがつくって管理しているということみたいだったんですけども、だから、出発は割とゼロから出発して、全体的にも割と……。

金澤委員 ただ、渡邊さんがおっしゃったように、どれだけのお母さんたちが見ているか、アンケート調査をしたときに、ほとんどの育児、ふたばなんか行ったときも、小さいお子さんを持っているお母さんたちは「パソコンなんてやる暇ありません」と、ぴつと言われ

ましたからね。「そんな暇ないですよ」と。現実はそのなんです。

小林委員 ただ、三鷹市の場合はかなり子育て中の人も書き込みもしているし、ということがあるので、だからそこまでできるようにすれば、だから、それが自宅にない人もいるわけじゃないですか。でもどこかちょこっと行ったところにある、例えば児童館だったら児童館に置いてあって、いつでも使えるふうになっている。

金澤委員 基本的にそこに置かなきゃだめね。児童館とか保育園に。

松永委員 一番は学校ですよ。

金澤委員 学校はあるでしょう。

松永委員 あるけれども、自由に使えないから。

金澤委員 でも、今意外と開けているから、学校なんかは。

松永委員 私、思っているんですけども、施設、これ全然関係ないんですけども、今いきなりPDFに飛んでいますよね、素案へびつと行って、PDFに内容が。

事務局 内容がPDFになります。

松永委員 あの前のせつかくPDFを売りのところだけをピックアップした、例えば、サイトがあったらなとかと思うわけですよ。そういうのというのは、策定協議会の予算とかで、もしもつくって、ああつくりたいねという話が盛り上がった場合に、そういうのは区から予算が出るんですか。それとも、自主的にサイトを経営しないと、運営するには……。

吉澤座長 でも、それは、そういうもし状況になったときに行政側とかかわりをもって、具体的には、今はどうするかということよりは。

松永委員 じゃないですよ。

吉澤座長 ちょっと待ってね。ですから、時間も制限されているところですから、この協議会をどうするかという課題になりますから、今、吉村さんもおっしゃったように、不足分をどうするかという問題もあるわけですよ。それが何なのかというと、私もちょっと思っていることは幾つかありますけれども、やはり子育て中のお母さんが対象になっているんですよ、これね、主として。だからもうちょっと成長過程のプロセスの中でどういうふうに考えるかという流れをもう少し考えていく子育ての問題というのも私はあるんだろうと思うんです。これが、ちょっとはつきりつながりができてないという側面もあるんじゃないかなという気はしますけれどもね。だからそこら辺をどうつなげるかという課題があるのと、それから、中学生やその他というものもありますけれども、いつかちょっと私も言っていたと思いますが、子育て予備軍に対してもうちょっと力を入れてもいいんじゃない

かということなんです。今、子育て中の人を対象にしていますけれども、だからそれがやっぱりライフサイクルですよ、一人の人間の。それがどういように子育てとかかわっていくかという、そういう有機的なつながりですかね、こういうものがこういうところであらわれないかなと、ときどき私が今まで思ってきたことの一つです。

そこに、さっきちょっとお話があった、経済的な側面、ここもどういふうに組み込んでいくかという課題にも出てくるわけです。お金の問題ですよ、支援と言っても。さっき物理的な条件とハードとソフト、あれは私の違う言い方からすると、今日ぐらいお話になって出るかな、出るかなと、私言うかもしれないけれども、人間関係条件整備と、それからいわゆる環境ですよ、物理的な。環境条件の整備と、この辺の課題を今のライフサイクルの中での流れとして、押さえていくことができないだろうかというの、ちょっと私、これ拝見して、これ本当によくできている。よくできているというのは、自分たちがやったのあれですけども、よくまとまりがついていると思いますけれども、そういう流れとつながりをどういふうに表現していくかというのは、ひとつ必要じゃないかなという感じはしておりますけれども。不足と言うんじゃないかとつながりですね。

それともう一つは、情報の話が出ていますけれども、これだけの施策をどういふ形で使いこなせるかという、こなす能力をどうやって住民と、もう少しはっきり言えば、行政の関係ができていくかという、ここもやっぱりソフトといえソフトなんですよ。どういふうに表現をしていくかというのは大変難しいなと思っておりますけれども、そこら辺の課題が大きくあるのかなという気がしているんですけども。

そんなことで、ご意見があればちょっと口火を切ったぐらいですけども、あればただければと思っています。

今、環境と言ったのは、どっちかという物理条件です、人間も入るけれども。でも、人間関係というのは、もう家庭の親子から始まって、家庭での課題というのは余りここに載せてないですね。行政は家庭と余りかわらない。唯一の私的の、私的集団なんだから、家庭という問題は余り持ち出さない方がいいというのが常道らしいんですけども、もうちょっとかわりを持ってもいいんじゃないかなとは思っているんですが、その辺は、いかがですか。子ども、家庭なんて言うけれども。

小林委員 ちょっとよく理解できない部分があるんですけども、例えば、基本目標というのが5つ立てられていますね。それで、私たちの仕事としては、私たちの委員会の仕事としては、目標を達成するために結局今先生がおっしゃったように、人間関係整備的な部分

と環境整理的な部分というふうな立場に立って、より具体的にこういうことをすべきじゃないか、具体的に政策としてこれをこうすべきじゃないかということを提言していくということ、要するにこの目標を達成するために、より具体的にどうするかということをもっと具体的にしていこうということなんですよね。私たちのすることというのは。

吉澤座長 具体的にというか、具体化できるような意見、提言ですね。

小林委員 意見を提言をしていくということですね。

吉澤座長 でしょう。

小林委員 ですね。

事務局 行政としては、こういう今ここの、目標の下に2つぶらさがっている、これは立っているわけじゃなくて、その下に施策がぶら下がっていて、これを総合的に進めてこの目標を達成していくというのを素案で述べていますので、ただそこに多分まだ足りないとか、これは実は違うんじゃないの、おかど違いの説明じゃないのというのがあるかもしれないですよ。

小林委員 ということはより具体的な部分を詰めるというふうに。

吉澤座長 具体的なものと関連しますが、やっぱり考え方の筋道ですね。余り具体化しちゃうとも見えないといけませんから、そこら辺にどう載せるかということだろうと思うんですね。だからそれは本当の提言に、本当って、うそもないけれども、これが具体的な提言と言えるんじゃないかなと思いますけれども。だから、目標は目標、具体的なものはこれ、できないものはこれだけじゃいけない、やっぱりこれつながなきゃ、さっきから有機的なというのはそこら辺なんですけれどもね。そういう機能がこれからの1年間に必要じゃないかなという気はいたしますが？……と、今申し上げたわけですがいかがでしょうかね。

そうすると、やはりちょっとお話で、具体的にというか、ライフサイクルの側から言うと、思春期ですかね。思春期施策というか、思春期に目を向けるというのがちょっと少なかったんじゃないですか。違います？ 私だけが思っているあれですか。

小林委員 私もそのアンケートの中で、中学生が小さいときに子どもを触ったことがある人と触ったことのない人の生活的に10年後か20年後の自分の将来にどう考えているかと言ったときに、結婚しているとか、子どもを持っている家庭を想像するとかしないとかという項目があったときに、子育てをした子、子育てというか、小さい子どもを触ったことのある、例えば、いとことか、近所のは割とそのパーセンテージが高かったのに、余り子どもを触ったことがないというグループは将来20年後の自分だから30幾つのときに結婚

しているという図を想像しているパーセンテージが非常に少なかったというのが確か調査項目の中であって、すごく私それが印象的で、それに対して、こっちの素案の方で書いているのは、中学生のころにどこか行って子育て体験みたいなことを書いてあったんですけども、ちょっと具体的な話に、細かい話になってしまいますけれども、そういうのを出て思ったことは、例えば赤ん坊を触るのではなくても幼稚園に手伝いに行かせるとか、その辺をやるみたいのところ、だから先生が今言われた思春期というところで、将来自分が結婚して子どもを持っている生活を思い浮かべられるような環境をつくっていかなければ、要するに予備軍というところでいつまでたっても予備軍にはなっていないのかなという意味で、その辺が読んでいて具体的な政策がないなというのは。

吉澤座長 ちょっと弱いかもしれないなというところですよ。

小林委員 出ていたのは多分それ1つぐらい、どこかに赤ん坊……

事務局 赤ちゃんとの触れ合いを。

小林委員 触れ合いをというのがあっただけだった。

事務局 子ども家庭支援センターで今やっているものを充実させていくということを施策として、事業としてはしております。

小林委員 それはもうちょっと範囲を広げても、幼稚園とか小学校とか、保育園とか。

吉澤座長 実は新宿区もやっておるとおもいますけれどもね、ボランティアセンターで夏休みの体験学習というのがあるはずで、中学生の。

事務局 夏休み体験ボランティアというのを今、募集していますね。

吉澤座長 そこに大分子どもたちからの人数、渋谷区は自分の区ですけれども、子育てに関する関心がこのごろ出てきたので、変わったなと思っていることがあるんですよ。だからそういうことを含め、そういうプログラムをどんどん入れていくという手があってもいい。それはいい。それは具体的な方法になりますけれどもね。

小林委員 具体的なことで、ちょっと先生おっしゃったので、そこがあった、そういうアンケート調査があったのにこちらの方の素案の中にもそのところは支援センターのとか話はちょこっと出たんですけども、なかったなというのがやっぱり。

吉澤座長 子育て支援センターもまだ始まったばかりですものね。

事務局 この事業は15年度から始めて。

吉澤座長 だから十分にまだ浸透してないんじゃないですか。

事務局 ことしはもう少し力を入れて声をかけたいということは言っておりますけれども。

吉澤座長 だからそういう今度は施策との関係の中で今お話が出てきたわけだから、その辺の課題も一つは提言という形が出てきていいんでしょうね。

そうすると、この協議会のよりどこをどこにしましょうかという課題になりますね。

小林委員 どの部分かということですかね。

吉澤座長 いや、どこ、どの辺の課題を中心にという、ちょっと今例として私は思春期の話をちょっとしましたけれども。

合澤委員 18歳までは、一応。

吉澤座長 支援センターは18歳まで。

合澤委員 子どもということでやるので、いろいろみんなそうですけれども、ずっと突き詰めていくと、具体的に私なんか考えると、やはり3番の子育てその前とそれから子どもを育てる環境で、家庭、地域の育て方、それから、幾つかになって、それに対して具体的に後ろに書いてありますよね。区の実際にやっていること、それから方向、そういうものをここに結びつけながら頭に置いて、この懇談会のときにやっぱり委員の人がいないと一緒に言っていると混乱しちゃいますので、そこをはっきりしておけば、だからこういうところにやっぱりこういう形で、これは形の上でしょうけれども、環境とか子どもが育ってほしいとかいろいろのことが出ていますけれども、現実には懇談会ときにはやはりどういう形で動いていくかということが中心になると思うんです。だから、これとあとの出ているイメージと、それから、実際に今やられている区の専門のとを分けながら、踏まえて頭に入れておけばいいかなと、一番問題はそれですよ。

吉澤座長 懇談会に行くときの心構えね、それはね。だけど、ここでもうちょっと皆さんの方向をお話し合いの中で決めていただければ幸いかなと思っていますけれども。

日高委員 ライフサイクルのどこに条件を置くかということですが、私は経験上、今のところまでの経験しかないのですけれども、子どもが幼稚園に上がるまでの三、四年の間というのは、今思えばすごくある意味すごく特殊な時期だったと思うんです。過ぎてしまえば。あの何年間というのはすごく風穴があかないというか。

吉澤座長 親が。

日高委員 親のことなんですけれども、今になって、多少自分に時間ができると、もうちょっと平常心でいられるんですけれども、あの時期ってすごく精神的にも体力的にもきつくて、やっぱりあの時期の親を助けてあげたいと私自身が。

というのは、それから上の子育ては未経験なので、それ以上の大変さというのを経験し

てないのでまだわからないんですけども、今現在では、私はあの時期がとても特殊だった、その時期を過ぎるととっても子どもってかわいって思えるのに、あの時期何で思えなかったんだろうとすごく思うんです。だから、あの時期に虐待とかいろいろちょっと普通の人では考えられないような事件とかが起きますけれども、そうならないように救ってあげるように、というのは、それって何かなといつも考えているんですけども、それこそそういう時期ってどこかに足を運ぶ余裕さえもなくて、パソコンやるのもとてもできないことはすごくよくわかるんですけども、そういうときに、いつもどこかで門戸を広げてあげて、それが、例えば区役所というか、役所の方で広げてもらっていて、そこに来者は迎え入れて、やっぱりちょっと私は今の生活では無理と、もう一度そのまま無理やりつなぎとめる必要はないと思うので、その辺、いつも何か改造している。実際に今児童館とかでやっているとは思いますが、そういうところをもっと知らせてあげる、そこに、前に汐見先生がそこに行ける人はまだいいと言われましたよね。実際そうだと思うんですけども、そこに行けなくてこうなっちゃっている人というのはどうすればいいのかなというのはまだ私の中で答えは出ないんですけども、でも何かやっぱり発信は続けていて、例えば今でもよくやっていますけれども、区域でまちとかでお祭りとか何とかと、さあどうぞ皆さんいつでも来てくださいというのをやっていますよというのは、新聞を読まないとは言われますけれども、ああいう媒体を通してでも、声をかけて広げていけば、こうなっている人がいつか急に「ああちょっと行ってみようかな」なんて思ってちょっとそれが気分転換になるとか、発信を続けていく大事さはあるんじゃないかなとは思いますが、やっぱり、私個人としてはあの時期の親を何とかしたいなというか。

吉澤座長 してもらいたかったという気もあるのね。

日高委員 私は、実際に助けてもらいましたけれども、児童館の方とかに、すごく。そこまでも行けない追い詰められた人も確かにいらっしゃるんじゃないかなと。そういう人たちって、地元の、例えば世話好きなおじさん、おばさん方のところに助けに行くなんて、とても多分できなくて、それはだってお隣のママでも声をかけられないくらいになっているわけですから。そういう人たちをどうしたらいいのかなと思うんですけども。

松永委員 やっぱりコミュニティというか、つながりが、お祭りにじゃあ、さっき先生がおっしゃった年代間のつながり、そのお祭りに渡邊さんのところで働いていらっしゃる若いOLの方にも渡邊さんの会社が先導しながら来てもらって、そうするとそこに小さい子がいる。ああ子どもってかわいいんだなと言って、若いお母さん予備軍になってもらえると

か、それから金澤さんがおっしゃった近所のおばさんを使ってよという、そういう。だからやっぱり本当にこの書いてあるこの支援計画の私たちのやっぱりあれは、コミュニティをいかにつくっていくか、そしてそれが赤ちゃんから 18 歳の子どもたちを巻き込んで、どうやって子育てしていくかという輪っかにきつとなると思うので、その輪っかづくりのツールがこの各施策なんだと思うんです。

これ、輪っかづくりの一つ一つの引き出しのツールだと思うんです。今、日高さんがおっしゃったように、その時期、助けてもらえるツールはどれなのかなというのを輪っかの中で回していく、それをずっとあくまでもここのこの協議会にきてから思ったんですけども、そういうつながりをつくる気持ち、それが地域であれ、町内会であれ、学校単位であれ、それがもしかしたら一番根っこにあるのかなと。その根っこができて、こういう施策があるんだよ、こういう行政サービスがあるんだよということを説明していくような、地域協議会がこれから立ち上がっていくというのがあるから、その素材集め、輪っかのいろいろな小さな輪っかの。

吉澤座長 ここが素材集め。ここが素材集めするの。

松永委員 いやいや、だから、それが地域懇談会の中から見えてきて、例えば、日高さんみたいなご意見も出てくると思うし、それをつないでいくときっとみんなでつくろうの子育てコミュニティタウンの形が何かまたこの 5 つの柱がありますよね、その 5 つの柱がつながって、そしてそれがさっき先生がおっしゃった環境と人が生きるつながりにもきつなくなっていだろうから、そういうコミュニティづくりを私たちは気持ちに持ちながら、活動していくのが。

吉澤座長 ここに望むの。

松永委員 ここに望む。

吉澤座長 ここの協議会を 1 年間どういうふうにしていくかという課題になっているので、それをどういうふうに皆さんがお考えですかと言って投げているんだけど、つい懇談会がこうなると、こうやると、つながるという具体的になりますけれども、どうなんでしょうか。そういうのをもう少し、上だか下かわからないけれども、ちょっとそれらをどういうふうにしたら、ここで基本的に考えられるテーマになるかなというぐらいのご意見を出していただくとありがたいなことなんですよ。

松永委員 方法ですよ、コミュニティづくりの……

吉澤座長 方法というか、テーマですよ。目的、テーマかな。

小林委員 結局、ライフサイクル的に考えることもすべてを含めて考えると、やっぱり地域力をつけるということ。ということは、結局、思春期の問題もやっぱり地域でカバーする問題ですし、今、日高さんが言った子育ての話も地域でカバー、昔はしてきたわけで、結局そうなると、地域、結局新宿全体を一まとめにして同じ、やっぱり地域差もあるわけですから、新宿区の中で。そうすると、地域の中の特色を持った地域をつながりのあるものにするような方向に行けば、それが一つ一つのつながり、一つ一つだけれども、そこが充実、各箇所が充実すれば新宿区全体が充実してくるわけなので、そうなると、どれも1から5までの目標を見て、すべてやっぱりそれは地域力をつけるということではないのかなというふうに思うんですけれども。そうすると、じゃあ地域力をつけるためには、具体的にはどうしたらいいかという、具体的な話になってしまうんですけれども、ですから、ここで目標としては、ライフサイクルまで含めて考えるとその地域にはすべての年代層が住んでいるわけですから、そのすべての年代層がお互いに助け合っていくということが最終的には安心して子育てをできるとか、あるいは思春期の子どもたちの非行の問題とかなんかもカバーしていけるということ。で、年の大きい人は若い人を助けるみたいな地域でやっていくということが一番理想じゃないかなと思うので、地域力をどうするか、地域力をつけていくためにはどうしたらいいか。

以前、例えば、汐見先生なんかも小学校という例を出されて、その統計の中で「相談に行くのはどこですか」と言うと、やっぱり小学校というふうなことをおしゃっているパーセンテージが高かったというふうなこともあるので、それだったら小学校の学区域を中心にじゃあ地域というものを考えてするか、例えば、中学校の学区域まで広げて考えるのか、でもそれじゃ大き過ぎるから小学校を核にして、その地域をコミュニティとしてしっかりしたものを持っていくようにしていくということを目標に掲げたらどうなのかなというふうにちょっと皆さんのお話の中で思ったんですけれども。

吉澤座長 地域力。

小林委員 地域力を要するにつける。

吉澤座長 でも、あれは地域福祉計画というのが一方ではありますね。それが大分そういうものも入っていますよね。

小林委員 ただ、入っていても現実にはやはりなってないわけですから、やっぱり子育て中にその地域があったらなと思ったりとか、やっぱり今非行の問題も現実にあるわけですから、だからそういうのが実際にあっても、それが働いていなければ、じゃあそれを働く...

...

吉澤座長 機能させる。

小林委員 機能させるためにはどうするかということなのかなというふうにちょっと思ったんですけども。

吉澤座長 はい。

事務局 何かそれ以前より前に、だからその何かのテーマに絞る前に、委員の皆様がどういうふうに、この.....

吉澤座長 委員会をね。

事務局 基本計画策定に具体化のためにかかわっていただけるのかということをもまず決めないとだめなんじゃないかななんて、私なんかは思うんですけども。

小林委員 そうすると、個々人一人一人がですか。

事務局 いや、だから、そのときにグループになって幾つかもって討論を深めて、討論を深めてこの場に、何というか、そうするとここで毎回毎回単発で言って終わりになるんじゃないかと、少し煮詰めたものをこの協議会に提案していただいて、じゃあそのことはこのどこに反映するかというのを立てて、最終計画に乗せてほしいとか、そういうふうな流れはつukれないものかなというのが私の.....

吉澤座長 事務局のねらいなのね。希望なのね。

小林委員 先ほど図に書いてある2ページ目というか、のところの図で内容的なこととかというふうに幾つか、3つぐらいになると思うんですけども、そのどこを具体的に、例えば、私がどこを.....

事務局 どれを選ぶのかというのがまず、やり方が幾つかあると思うので、だから、内容と もう一つ編集の面では得意な方にかかわってもらいたいという、全然別の次元のものがあ りますけれども、まず大事なのは内容についてどのように委員さんが自分なりの問題意識、それから懇談会に出たときにそこでのニーズを吸い上げて、それを具体的な形にしてこの 計画の中に反映していただけるのかなということ、今日は投げかけているわけです。

渡邊委員 ということはあれですか。この政策体系の中の目標で、いろいろ項目ありますよ ね。課題と今後の取り組みとあるんですが、各項目ごとにこれは事務局でつくっていただ いたことですから、この辺に載っていることで、本当にこれで改善されるのという部分を 我々の中に一つの項目ごとに検討して、それで落とし込むという。

事務局 するのか、もう一つそれはもうそのまま置いておいて別の足りない部分を重点的

に話し合っていていただいて提案していただくのか、事務局の方としては、その2つのどちらかがやりやすいのかなということでここに例は挙げていますということです。

ただ、これにこだわらずにもっと別のうまい反映の仕方があればそれでやっていただけないかなと思っています。

松永委員 例えばですけれども、数値目標を出すというのがありましたね、国の。あれで、例えば、国の5年計画の中で、じゃ保育園の待機児、新宿区にどう当てはまるかというのはわからないんですけれども、そういったものが今700人いたらそれを16年度に400人に……

事務局 体系では36人です。

松永委員 ああそうですか。だから今新宿区には当てはまらないとは思いますがと前置きをしたつもりなんですけれども、そういう数字を出さなきゃだめみたいなの。

吉澤座長 いやそんなことはないね。

松永委員 そんなことはないんですね。

事務局 それはもう程度人数調査と行政のある程度の今後の計画等とすり合わせながら、出したものは、もう出せる時点になればこの協議会に出していきますけれども、そういう余り個々の、あと保育園1カ所とか、そういう議論になってもしょうがないのかなというふうに私は思いますけれども。

吉澤座長 むしろ基本的な考え方を具体化するという、このプロセスの問題なんですよ、今、提起しているのが。だから、おっしゃられるように、施策を1つずつ見ていくというのも1つよね。チェックできないけれどもどうであったかと言って、ずっとつなげて割り振って、どの課題、どんな場合でいうことでやっていくのも1つ。今、おっしゃるのは、だから地域力とかいろいろ出たけれども、ほかの委員会の方はいろいろ出ていますから、それを少し分析してお互いに突き合わせていくというやり方もあるかもしれませんね。だからどういうふうにしていきましょうか、一番皆さんがわかりやすいというか、具体的なのは、ここにあらわれたものを少し中心にしていくという方が一番やりやすいね。簡単じゃないか。やろうとするときには簡単かもしれないけれども、中身はちょっと複雑になるかもしれませんよ。

事務局 だから新しいものをつくるよりは。

合澤委員 これをしながら、し足りない部分のこういうふうなところにちょっと足してほしいとかというふうにしていけるわけでしょう。この中で、読んでいくと、あれじゃないん

ですよ、反対にこれせつかくここまで来ているから、ただ細かに言って自分の体験からだと、この箇条もつけていただけると満足できるんじゃないかなというようなものが、やっぱり皆さんの立場であると思うんですよね。例えば、ここまででとまっているけれども、ここまでにしてもらえればという点が、そういうのをまず見つけながらやっていけばいいんじゃないか、まずそれが第一にあれかなと思いつつながら。

吉澤座長 という話は、これを逐一見ていこうということですね。

合澤委員 見ながら。はい。そうするともう少し加えてほしいという部分がまた出てくると思うんです。これも全然関係なくてということではなくて。

吉澤座長 関係なくはない。

合澤委員 関係なくないけれども、これを読みながら……

吉澤座長 どうしますかね。何か本当にいろいろで。

事務局 例えば、地域の人づくりをどうすればいいのかというのはまだここでは出ていないのであれば、それに絞って。

吉澤座長 だからそれはさっきおっしゃった地域力だと思うんですよ。

事務局 そうですね。二、三人の方がそれについて提案をつくるというようなやり方の方が楽しいもんだなっていう、逐一これを見ながら直していくのよりは楽しいんじゃないでしょうかというのが私の思いですけれども。押しつけるわけにはいきません。

合澤委員 地域地域と言葉使うんですけれども、今も出たように、じゃあ現実はどういう形でどうというふうになるとちょっと詰まっちゃうんですよね。だから、今、ちょっと……

吉澤座長 だから、それは話し合いの中でしていけばいいと思います。だから、今、地域力という言葉がいいかどうかは別として、地域の相互関係なり、人づくりなりというお話が今出ましたから、それをもう少し具体的にこの計画と兼ね合わせながらディスカッションしていく。全く別の方じゃないんですよね。これは地域みんな土台にしているから、その辺との関連で出てきたものを反映できればするしという形になりますわね、一つは。だから、それはやっぱりグループの方がいいでしょうね。グループ、ここでちょっと案として示してくださったのは、各個人が個別にというのではなくて、グループで少し、ある程度グループの小さいグループで話し合ったら、今度は方法になるんだけれども、いかがかなと思いますけれどもね。

だから、グループで課題を決めたからといってこれと関係なくじゃないですよ。常にこれと関連させてディスカッションしていくという形になるかと思えますけれども。

ちょっと伺うけれども、新宿のふれあいのまちづくりと、社協あたりがやったのを何かできているのありますか。ふれあいのまちづくりの委員会が.....

事務局 今社協でやっているのは住民との住民活動計画です。

吉澤座長 うんそうね、違う。もうちょっと前か何かにはやっていませんか？

事務局 ちょっと今私わかりませんね。

吉澤座長 そうですか。

ちょっと私のかかわっているのが今やっているんですけども、前からやっていて今もっと少し具体的なところ、これと似たようなところになってくるんですけども、もし、そういうのがあれば、もうちょっと、それこそ情報と地区の実態を見ながらディスカッションしていくとなると、もう少し実質的になるかもしれません、この中身。具体化すると。

地域という課題になると小学校や何か全部入りますね。人も全部、年齢差も出てくるでしょうね。そこら辺も検討しながらという条件付きでやるということも一つかもしれませんね。

合澤委員 地域の中で団体でこの形、それから個人的ということはないんですけども、活動しているんですよね。だから、それがそことうまく、どこかでちょっとつながってないなという部分があるので、そういうところも検討したらいいんじゃないかなと。育成会なんか、随分長い歴史がありますので、組織の中にたくさんの民生委員からいろいろな方が入っていらっしゃるので、そういうところとうまく、それから町会の。そういうところとうまくいくと、何ていうのか地域力というのがつながっていくんじゃないかなと。今、町会というと、若い人はほとんど関係ないという感じが多いんですよね。だから広報紙なんかも見ている人がほとんどいない、若い人は。アンケートにそれ出ていましたけれども。

だからその辺、あるそういう大きな組織を区でやっていますから、うまくつながっていないのかなという気がしますね。

吉澤座長 一つ地域力というのはいいかもしれませんね。地域力という.....

合澤委員 何でも出ます、地域。

吉澤座長 出る。だからそうそうそう。それを整理しなきゃなりません。つながるきっかけになると思いますからね。

合澤委員 はい。

吉澤座長 余り中学の総合学習の中身なんていうのに入り込んじゃいけませんかね。地域...

...

小林委員 私、終わったんですけども、中学校の評議員をやってみて、総合学習を計画したんですけども、正直言って、ああ先生方は、総合学習に困っていらっしゃるなというのが、先生も何していいかわからないし、子どもも何をしていいかわからないというのが現実なのかなという。何回か授業も見に行っただんですけども、やっぱりそういうところがすごく強いので、だからもし一つのプログラムをちゃんと立てて、例えば、地域でこうというふうなのを提案することができる機会、だからそれがきっちりしたものであれば、多分中学校の方としても要らないとは言わないんじゃないのかなというのを感じました。本当に総合学習、どこの中学校もそうかどうかはわかりませんが、たまたま私が見に行ったところは、本当に子どもも何していいかわからない。先生も何をしていいかわからないというのが現状かなというふうには感じました。

吉澤座長 領域がちょっと違いますけれどもね。ここで話すのとは。

小林委員 ちょっと違いますけれども。ええ。

吉澤座長 かかわりを総合学習の限界も必要かなとは思ったりもすることがあるんですかという。

事務局 だからそれはちょっと関係していた者としては、いいのかなという。だから、例えば、ちょっと話が外れちゃうけれども、例えば、渡邊さんなんかも新宿区の前中学校の方で青年会議所の方でやった。

渡邊委員 青年会議所の方でやりまして、区内の中学校の生徒さんに集まってもらって夏休みに、自分たちで物をつくったりする、それを自分たちで販売するというふうな企画をして、それは我々がやったんですけども、それがだんだん広がってきまして、各総合学習の時間に学校の方で取り入れたりということもあるみたいですし、ほかの地区委員会なんかだと、社会体験実習ということで、まちの企業とかお店に子どもたちが行って、販売体験をしたりというようなことはしていますし、学校の先生、小林委員がさっきおっしゃられたように、実際何をやっていいかわからないという部分があるみたいなので、例えば、そういう中に、先ほどのお子さんと触れ合う時間をというようなものを取り入れたりということがプログラムとしてできるようなものを提案していくというのも一つなのかなと思いますね。

吉澤座長 だから、総合学習をどうしようなんて言ったんじゃちょっと角が立ちますから。ちょっと私も調査をしていると本当に皆困っているんですよ。それで今の問題なんかの子育てとのかかわりの中で押さえていくとというのは、ちょっとこれは私が感じていること

を今申し上げているので、それがいいとかやりましょうと言っているんじゃないけれども、どうなのかなという、お考えいただくきっかけをちょっと申し上げたわけです。

合澤委員 私、小学校の今評議員をしているんですが、学校差はあるかもしれませんが、今地域と、地域に入ってもらって一緒にやっていかなきゃいけないということで、学校の方針としてこういうことを研究やっている子どもたちにこういう言っていますけれども、地域からの要望も出るんです。地域の人全部、大体入ってしまして、それで何かやる時は学校と地域が、だから、間接的かもしれませんが、区内の学校がそういう感じで皆評議員いますから、そういう方向が出てくると割合地域力というのがそこに出てくると思うんです。

それと、やっぱりお母さん方たちにもちょっと会ったときに個人的にちょっといろいろお話をすると、やはり悩んだときにはお友達しか相談ができない。でもそれを全部できない。だから、学校の先生だとか、そういう方にちょっと相談できるといいんだけどもという声をちらっと聞くんですよ。だから、やっぱりカウンセラーみたいな人が入っていますけれども、学校単位、要するに小さいお子さんから含めて、そういうところに、お一人そういう方が入っていらっしやると、電話でもいいし、電話だったらいいという声もよく聞くんですよね、話せるから。だからそういうのをつくっていった方がいいんじゃないかなと思って私聞いていたんですけれども。支援センターとかいろいろな窓口はありますけれども、そういう窓口を広げながら、悩みを聞きながら相談してやっていくというのも、相談というかお話を聞くという段階だけかも知りませんがね。今、聞いていて、ああこれも地域力の一つになるかなとかと思いながらお伺いしたんですけれども。

吉澤座長 その中身もそうですけれども、ほかの課題をちょっと幾つか出していただくと、そこからまたステップとして1つの課題にしたいというふうに思いますが、どうなんでしょうか。今、そこに、吉村さんの方の説明の個人が個別的にというのは、修正のずっとできる中身ですね。修正というか内容をずっと見ていくという感じの個別ってというのは。

事務局 いや、だから、これは両方矢印ありますから。

吉澤座長 だから、両方あるんだけど。

事務局 章ごとに何人かで検討して、それはグループになりますよね。

吉澤座長 でも、ここは何人いましたっけかね。

事務局 先生方を除いて8人です。

吉澤座長 すると4人4人ですか。というふうに分けちゃうか、課題だけをつくって出てく

る人を自由にするか。偶然ということがあったりすると困っちゃいますね。という形がいいのか、方法が出てくるかな。

事務局 そうすると素案をもとに文言なり、もっと踏み込んだ表現にしていくとかという提案をされるのであれば、章ごとに担当するとか、そういうことになるんですね。

吉澤座長 どうでしょうか。私はちょっと余り言わない方がいいのか、申しませんけれども、各章ごとに見ていくというのは1つある。でもどうなんでしょうかね。

これを土台にして、ここから出てくるいろいろな中身を少し話し合っ、もとの中はどう突っ込んでいくかという方が何となくいいような気がするんですがいかがでしょうか。ただし、ちょっと大変なときが出るかもしれませんね、課題によっては。多数決でどうこうというのも仕方ないけれども、皆さんのご意見の方向とすればいかがでしょうか。それちょっと今日決定しないとイケませんね。

事務局 そうですね。

吉澤座長 次から進められないでしょうか。

事務局 ええ。最後ちょっと区の新しい今年度の情報提供の時間を5分ほどいただきたいと思っております。

吉澤座長 はい。あと10分ぐらいです、そうすると。どうでしょうかね。

タイトルのつけ方、ちょっと工夫しても、今おっしゃった地域の課題というのはいいかなという気はしますけれどもね。

事務局 地域の課題ですね。

吉澤座長 地域課題、地域力とおっしゃったけれども、ちょっとそこら辺は、もうちょっとタイトルを考えてほしいというぐらい。タイトルを、もっと格好よくしましょう。

事務局 例えば、地域ごとに回っていきますよね。そうしてここで地域の課題というのは1番は何なのかというのが出てきたら、それについて考えるということですか。地域の課題というかレクチャーを。

吉澤座長 いやいやここでは地域力というのは何だろうかというのはきちんと、これとの関連で考える、そしてまた地域の懇談会がそこに突っ込んでいく。懇談会で出たものだけじゃない形を私は意味しましたけれども。

事務局 もちろん全体の地域力というのもありますね。

吉澤座長 そうです、そうです。その辺を皆さんが少しディスカスする中で、コンセンサスを得た考え方を得れば。

事務局 新宿という地域に着目して……

吉澤座長 そうです。じゃないかと思うんですよ。

事務局 新宿という地域で、例えば子育てコミュニティタウンをつくるにはどうしたらいいのかというのを少し、新宿区の性格としてもう少し掘り下げるといっていいのでしょうか。

吉澤座長 そうです。

小林委員 だからコミュニティタウンというの主張するのか、全体のコミュニティタウンというのと各地域での、そこをもうちょっと狭い範囲で、例えば、榎地区だったら榎地区、落合だったらその地区と、地区が学校単位で……

事務局 次のステップとして。

小林委員 だから全体として1つというのと、地域、地域の地域差があるのでそこをコミュニティタウンというという位置付けですね。

吉澤座長 それは最終的になると思いますけれども、もう少し地域全体を皆さんがどういうふうにするかというのを、各地区に行って、そこから出てきた課題を少し整理して、それらを総合していくと新宿区という区の全体像が出てくるんじゃないかなと。その場合に、照らし合わせると、どこそこの点が欠けている、あるいはここをちょっと強化した方がいい。この地区はもうちょっとこっちに中心を置いた方がいいというふうに具体的な提言ができるんじゃないかなという気がいたしましたけれどもどうなんでしょうか。懇談会等の結びつきも出てくるんじゃないかなという意味でちょっと、だからそこら辺の地域力とはなんて言うんじゃないかとちょっとかた苦しいから、少しその辺のコミュニティ……

小林委員 ということを中心に話し合っ、その人たちは地域の中でどういうことを要求してきて、これではどう考えているかというふうなことを考え合わせるということですね。

吉澤座長 そうですね。もう少し言うなら、地域というのは、これちょっとお話も出たけれども、どう考えるのかというのは、やっぱり前提ないんじゃない。ないんじゃないかって、皆さんいろいろに考えていらっしゃるんじゃないかな。だから少しこの辺で考えましょうというものがあってもいいような気がするけれども。地域福祉計画では……

はいどうぞ。

日高委員 個人的には地域の力というのをよくプラス面ばかりすごく今言われますけれども、マイナス面も考えているんですね。実際いなかで育ったので、その地域のしがらみとか、そういうのを経験しているので、すべて地域力が高まればよいとは思えないんですけど

も。それでもそういう面を持ちながらも、その地域というテーマを持って、これからの、必ずしも地域が絶対いいとは私は思えないんですけども、それでも構わないでしょうか。そういうマイナス面というか。

小林委員 マイナス、構わないというのも、例えば、地域によって、例えば東京に住んでいるメリットとしては、人に干渉されないとか自分は自分の世界でいられるとか、私もいなかで育っているから、それはわかるので、だからその地域、地域によって、その辺のことを、要するに地域をどうとらえていくかというのを少し考えていって、だからおっしゃったよう、やっぱり立ち入ってほしくないという部分の人もあるだろうから、じゃあそういうときにはどうするかとかという。

日高委員 それは自分の意見として持っていていいわけですね。

小林委員 ええ、と思いますが、だからすべて全員がそういうふうにするというんじゃなくて、その人たちが一人一人がその地域で心地よく住めるためにはどういうふうにしていったらいいかということなんだろうなあと思うので。

日高委員 そうですね。

小林委員 確かに干渉されたくない、土足で家の中まで踏み込んでてもらいたくないというのは絶対に東京に住んでいる人はそれがメリットで住んでいる人も多いわけなので、だからその辺のプラスマイナスをどうするかということ、そこだから地域に行って話を聞いてくるということになるんじゃないかなと今先生の話で、ああ私はそういうふうに理解したんですけども。

日高委員 はい。

松永委員 個人対個人……

合澤委員 じゃあないですよ。この地域力というのは、個人対じゃなくて、やはり地域の、例えば1つの団体があって、その団体なら団体の方と連携しながら、個人的な付き合いとか、そういうことじゃないと思うんですよ。ただ、その中で、結局何でも話せるという人が出てくれば一番いいですけども、地域と言っても必ずそこでかかわらなきゃという、むしろ恩恵を被るという形で考えていった方がうまくいくと思うんですよ。

日高委員 距離感は個人同士が持てばいいわけですよ。

小林委員 それがやっぱり地域によって結構その辺の部分というのがちょっとやっぱり差がある、特に新宿の場合はやっぱり違うかなあと思います。

松永委員 みんなばらばらの人間で、私、おとといも申したように。

吉澤座長 だから新宿区の方々に私細かく余り接してないからわかりませんが、私は渋谷ですけれども、前はそうだと思ったけれども、こうなっちゃって何とかならないのなんて逆になっている人もいますよ。だから地域の課題をもう少し現代的、現代的というか、今の時代にどう踏まえていくかということは大事な要素だと私は思っていますが。

松永委員 逆に、今、ちょっと雑誌とかを見ると、いろいろな意味で地域の力を借りて学校をもっととか、地域の力を借りて、いろいろな施設を運営しようとかというのがありますよね、そういう課題が。そういった動きの中で、じゃ新宿区としてどういったものを取捨選択していくとより区民が住みやすくなっていくかということのを吸い上げて反映、反映というか具体的な提言になるかなという。

吉澤座長 まあ、区の独自性を明確にするということですよ、一言で言っちゃおうと。じゃないの。

松永委員 そうですね。

吉澤座長 独自の動きというような実態と、それをどうしていくか。これが区長さん初めよく言っている「新宿区らしい」という、この「らしい」というのはちょっと怪しいんでしてね、わからないですけれども、でもそれに近づけていくという原因になるんじゃないかなって思いますけれどもどうでしょうかね。「らしい」って何ですかというふうになっちゃうね。でもプラスマイナス。

松永委員 そのばらばらも新宿区らしいですよ。

吉澤座長 そうですよ。「らしい」というのは。でも地区によってちょっと違う。だから、私は地域っていうのはアミーバ状だと思っているんですよ。アミーバ。でも核はどこかにある。だからその核をどうやってつくっていくかというのが地域の問題と絡むんですね。だから物理的な地区じゃないんですね。やっぱりつながりの中で、とりあえず物理的な拠点を持つけれども、それをどういうふうに柔軟性のある核を中心としたアミーバ状に広がっていく、ここを重なっていくでしょう、いっぱい。こういう地域ができると動的な地域とでもいうんですか、必要なんじゃないかと思うんですけれども。割合に固定的にとらえがちだから、その辺を言うはたやすいんですけれどもね。そういうところに向けていくようなこともひとつできるんじゃないかしらと思うんですけれども。

　　どういうふうにいたしましょうか、そうしたらそういう課題を一つとりながら、全体的なもの大変抽象的ですけども、とらえていくという流れでよろしいですか。私が決めるわけじゃないです。皆さんの決定で進めさせていただきたいと思いますが。

松永委員 これからパブリックコメントへ向けて懇談会をしていき、それがうまくいったらワークショップになり。

吉澤座長 それは先の話ですね。

松永委員 先の話になっていくけれども、その中でどんどん計画が育っていくんですか。

吉澤座長 そう。もうもとはそうですよ。やっぱり計画倒れしない、その素案が活かされるようにしていくのが今年度の糸口をちょっとつけていくというのがねらいじゃないでしょうか。

松永委員 だから、多分、この1カ月になって。

吉澤座長 それを我々ももう少しこなしてみましようよと、話し合いの中で。

松永委員 回ってきて初めてまた見えてくるものも。

吉澤座長 ありますよね。

松永委員 あると思うので。

吉澤座長 あのとて言っていたけれども、これ、こういう意味だったかという確認する場合もあるかもしれませんね。それは個人の自由だと思いますけれども。

小林委員 例えば、これは地域に分かれて懇談会をしますよね、地域懇談会は。

吉澤座長 それは懇談会ね。

小林委員 それで地域差があるということを前提にして、地域別からの立場で素案を見てみると。

吉澤座長 うん、そういう見方もありますよね。

小林委員 だから、地域に話を聞きに行つて懇談会をやつた結果、全員が全部出るわけじゃないので、だから、地域別から見た皆さんのこれの見方に対して、じゃ委員会、こちらとしてはどう対応していくかというふうに、項目別という見方もあるけれども、地域からこれを見てみるというふうな見方の一つとして、そういう方法もあるのかなというふうにも、地域を中心にして考えるのであれば。

吉澤座長 じゃないんですか。そうだと思います。地域の側から見て項目はどうであるかということにもなりますよね。

小林委員 それで、グループで例えば見る場合はその地域に分かれて、各、例えば作業部会じゃないですけども、そういうふうになんか地区から見たというのをそのグループで検討するみたいな形に。

吉澤座長 そういうやり方もあるし、二、三の似通つたところへ集まってやるのもあるし、

いろいろやり方は幾らも考えられるかなというふうに思いますけれどもね。また狭くここはここがこうだと、これはちょっとどこか。

小林委員 それで、人数もそんなにいるわけじゃないので、そんな細かくということは不可能だと思うんですけども。

吉澤座長 どうでしょうか、担当の方々。

事務局 まだ何となく私の中では漠然と、その後の進め方がちょっとまだイメージはつくれてないんですけども。方向性はわかりました。

吉澤座長 だから、そこからここを見ていくという、地域の。そういう見方もあるから、ちょっと違う見方。

事務局 1つの提案としてそういうことで、だから先ほど言ったように、項目別にみんなでやっていく、ここここはこういう地域ということで考えた場合、ここをどうするかと。

例えば、視点が.....

吉澤座長 それら具体的なものとしては出て.....

事務局 だから、そういうふうに、項目別に分かれて見るという方法もあるけれども、一つとして地域的な形でこれを見ていくという。だから、どこの視点に立ってこれを見ていくかということのやり方。

吉澤座長 そうですね。

事務局 ということで先ほど言ったふうに項目別で見るというふうな仕方であれば割と具体的に見ていくので、やりやすいかどうかは知らない、わからない、やってみないとわからないんですけども、ここにあるものを検討するということは、何も無いものを考えたりするよりはという。

吉澤座長 ことになりますよね。

事務局 なるかなとは思うんですけども。

合澤委員 管理職の方は出てくださいませんね、そういうときは。

吉澤座長 で説明もしていただかなきゃならない時間、所定は5時まででしたね。

事務局 一つの到達点の確認をいたします。

吉澤座長 ですから今話の中で、言葉づらになっちゃいますけれども、地域という、地域力というふうにおっしゃったけれども、地域の教育力と言ってもいいのか、地域の何ていいですか、生命力と言ってもいいのか、いろいろあるかもしれませんが、ちょっとそのタイトルは考えさせていただいて、そういう地域の側からいろいろな今までここに出されてき

た素案の項目と検討し合っていくと、そのときに今お話が出たように、各地区の特色という側面から見るという見方もあるけれども、それも一つ。だけれども、そういう見方もあるけれども、全体的な見方につながっていく。共通点もそこから引き出さなきゃならないでしょう。新宿らしさというのは、その先の話ですけれども。このときには、そこら辺に焦点を当てて懇談会に臨んでいただいていた方がいいんじゃないですかね。と思ったんですけれども。

事務局 懇談会に臨む……

吉澤座長 臨むことの中身。

事務局 ところまでは今日決まったということですね。

吉澤座長 はい。

事務局 その後どうしていくかということについてはまだちょっと具体的には今日は決まらなかったということですね。

吉澤座長 具体的にね。そうね具体的……多少方向は決めた。

事務局 はい。方向は決まって、また地域懇談会に参加されているいろいろ変わってくるかもしれないですからね。とにかく、どういう皆さん共通の核をもってこの地域懇談会に参加していくかということが。

吉澤座長 臨むかということですね。

事務局 決まったということですね。

吉澤座長 今日の話の中から少し検討させていただいたので、こういうふうにしたらどうかというのを皆さんにもう一度投げかけましょう。

事務局 そうですね。今日の議論を踏まえて、もう少し何かあれば。

吉澤座長 まとめて、皆さんに配って行って、配布して、それをまた皆さんのご意見をちょうだいしてという形で決定させていただいて、協議会の進め方をはっきりさせたいかがでしょうか。今日は、ぱっぱと決めて、ああと言って後で残すより、もうちょっと検討させていただいた方がいいかなと思います。また、この雰囲気というのを皆さん経験していただいたから、そこからまた感じることもおありでしょうから。そういうような形も含めて、させていただいて。懇談会のときに皆さんお出になるんでしょうか。

事務局 それで、事務的な話ですけれども、まだ、策定協議会委員というところを見ていただくと、参加いただく予定の方を入れておりますが、全員ということではまだないということと。

吉澤座長 これ何人なんですか、定員数としては。

事務局 前回、欠席された方で、まだお返事をいただけてない方がいらっしやいますので、今日できれば確定をしていきたいというふうに思います。その前に申しわけないんですけども、もう一つ、今日の資料で、資料の続きをちょっとごらんください。

新宿区で、本年度素案の段階ですけれども、既に今年度具体化している事業がございます。今日、これからのシンポジウムでこのチラシ配ります。ちょっと紹介させていただきます。

1つが北山伏子育て支援協働モデル事業ということで、何度かここでも話が出ているものですが、計4回までが進んでおります。この委員会の中からは、小林委員が毎回ご出席いただいて、活発にかかわっていただいております。

ワークショップの内容を見ていただくとともに、今日ファシリテーターの石井先生から、この協働モデル事業の進め方と今後の展望などを話していただけますので、こちらはあとは読んでください。

あと、まだこれからでも参加可能ですので、ご興味のある方はご参加をお願いします。

もう一つ、公園づくりワークショップ参加者募集ということで、これは、子どもの権利を大切に作る仕組みの充実ということで、まず1番で上がっているところなんですけれども、子どもの権利の文言として整理していくということも大切ですが、今回、新宿区としては、具体的に子どもが施策形成過程に参加をしながら、自分の権利とは何か、それから、周りの制約、いろいろな規制なり、住民、ほかの大人の意見ですよね。そういうものとすり合わせながら、どういうふうに具体化していくのかということを体験するというのを目的に進めていくということ。これは、これから始まります。第1回が6月5日、大人のワークショップをして、大きな住民の方の意見を聞き、それを前提に、今度子どものワークショップというのをしながら、具体的には西落合の児童館のとなりのあかね児童遊園というものの改修に入っていくということです。これは児童家庭課と土木部の、みちとみどりの課の共同で進めていく事業です。大人や子どもの皆さんの意見を引き出すしていくために行政の職員ではなく、3ページ目に書いてありますけれども、2人の進行役を立てながら、協力いただきながらつくっていくという資料です。もし、大人のワークショップ、それから、討論会の方を参加していただけたらと思います。

それから、先ほどの小林委員が見学に行った情報局ですけれども、新宿でも同様な事業を今年度進めていく予定になっておりまして、その準備として見学に行っているというこ

となんですけれども、46ページをごらんいただくと。

吉澤座長 三鷹の。

小林委員 新宿区の方も情報局。

事務局 区民とつくる子育て情報局という事業を本年度進めていきまして、区民の、既に情報に関して活躍していらっしゃるグループと、あと講座を開きながら新しい方を開拓しながら、やはり区民の方の方から情報発信していただく。それについては、核となるのはITを使っての発信なんですけれども、そこから口コミなり、地域のための中に広がっていくきっかけになるので、ひとつこれだけに特化した形ではなく、これを突破口として、区民とつくる情報というものを模索していきたいという事業です。

これも今年度これから、今順次段階ですけれども、講座等を募集しながらやってまいりますので、よろしくをお願いします。

それともう一つ、子育て仲間づくり事業というのがございまして、それは、小林委員がちょっとかかわってくださっていらっしゃいますので、ちょっと報告をお願いできますでしょうか。

小林委員 まだ、ちょっと話まだ始まったばかりで何ですけれども、児童館の広場事業なんですか。

事務局 いや、あれは子育て仲間づくり事業という、ことし新しく立ち上げている事業で、ここにも載っておりますけれども。

小林委員 事業名をよくわからずに私は引き受けたんですけれども、新宿区の児童館がサロン活動をするということで、サロン活動をサポートする人たちを多少講座をもって一応聞くとか何とかという事業を。

事務局 持っている方は70ページをごらんください。

小林委員 そのサポートする人たちをネットワーク化してというふうなことでちょっと私がかかわらせていただくことになりまして、6月末に3回ほど講座をもちまして、その方たちをあとネットワークして、その方たちとの話し合いの中でサロン活動をどう持っていくかということを勉強会とかを兼ねて具体的にやっていくということになりまして、それとこちらとかかわっているというのはちょっとまだ私の方では役所の方がどういうふうにかかわっているかは全然存じ上げてなかったんですけれども、そういう形で具体的に私の方は動いていくつもりであります。

それは、サロン活動はゼロ歳児から大体未就園児の子どもを持った親御さんを対象にと

ということで、ですから大体ゼロ歳から4歳ぐらいの保護者と親子を対象に各児童館を中心に、児童館20ぐらいあるんですか。

事務局 21ですね。

小林委員 21あるので、そこで1つの児童館に1つのサロンをまず持つということの前提でやっていこうというふうなことで、具体的に動き始めております。

それがまだどういう形になっていくかわからないんですけども、多少走りながら考えていかなきゃならないかなというところもあるし、例えば、日高委員のように経験なされた方から意見を伺えればなというところもあるので、また皆さんの意見もお伺いしたいなと思ってきますので、また吉澤先生からは、持って行き方のハウツウ何かもまた教えていただきたいなと思いますので、よろしくどうぞお願いいたします。

事務局 一応すべて区民の方とか地域との協働というものが割と柱になっていながら、新しい事業展開を少しずつ初めているというところですよ。一応、今進んでいるものをご紹介させていただきました。

吉澤座長 協働のあり方も難しいんですけどもね。この辺の問題は、どこでも同じということですか。

事務局 済みません、ちょっと時間が過ぎてしまいました。

吉澤座長 ちょっと時間が延長して恐縮でございました。今日ちょっと余り手際よく進められなくて申しわけなかったと思いますけれども、でも皆さんの忌憚のないご意見をちょうだいするということが大事なことから、ありがとうございました。

それで、もしお任せいただければ、さっき言ったように、事務局とちょっとご相談して、タイトルみたいなことを考えさせていただいて、皆さんにまたご意見ちょうだいすると、これは文書ぐらい、メールなんかでもできるよね。

事務局 メールなり、またファクスで。

吉澤座長 というふうにさせていただくことをご了解いただいて終わりたいというふうに思いますがいかがですか。いいですか、事務局は。

事務局 はい。

吉澤座長 渡邊さん大いにやってくださいね。企業とのかかわりなんかで、地域に出てくるといところでかかわっていただくとありがたいなと。

事務局 それで、恐れ入りますが、今後の策定協議会での進め方もかかわってまいりますので、できればどこか1コマでもお忙しいのはわかっておりますが、まだお参加いただけて

ない委員の方にはこの地域懇談会へのご参加をお願いしたいというふうに思います。

次の策定協議会は、この間に持つのか、この懇談会が終わった後に持つのかということが一つあると思います。どうですか。それをちょっと日程は調整させていただきますが、それだけちょっと伺いたいのですが。

吉澤座長 どういたしましょう。ご意見、それはご意見もあるかもしれないけれども、これは6月、7月になっちゃいますよ。

事務局 途中で1回入れていただきたい。というのは、どんな感じかということとか、あるいはやっぱりいろいろな意見で自分が思っていることと違うことが出てきたりしたときに自分がどう対応していったいいのかということが多分私はわからなくなると思うので途中で入れていただければ、皆さんの話を伺いながら自分の考えもまとめられるかなと思うので。

吉澤座長 今途中で1回ということですね。私もちょっと終わりまでは長過ぎるはね。

事務局 では1回でも2回でもちょっと調整して。

吉澤座長 とりあえず1回は決めますか。

事務局 最低1回は出ます。

吉澤座長 そうすると6月ですかね。

事務局 6月ですね。

吉澤座長 6月の半ばぐらいなところですかね。

事務局 はい。それでちょっとここ2回ほど鈴木委員のお仕事の日に重なってしまって、鈴木委員が参加できない状況がございましたので、木、金かなんか定例に都合が悪い曜日がございましたので。

吉澤座長 そうすると何曜日がよろしいんですか。

事務局 あとでいらっしゃるので聞いて、ほかの方で絶対だめな曜日がもしあれば伺っておいて、ただ、ちょっと鈴木委員の出られる日で設定したいなというふうには、事務局としては思っております。

吉澤座長 そうね。長いこと。じゃあそれはそういうことでどの辺にしますかということですね。

事務局 半ば。

吉澤座長 10日ぐらいかな、6月の。

事務局 ちょっと2週目までは議会がありまして、ちょっと出席できませんので、14日以

降の週でお願いしたいと思います。

吉澤座長 じゃあ2つぐらい候補を皆さんでここで出しておけばよろしい。

事務局 そうですね。

松永委員 策定協議会というのは、平日じゃなければだめなんですか。

吉澤座長 平日？

松永委員 平日じゃないとだめなんですかね。

吉澤座長 つまり役所とのかかわりもあるかもしれませんから。

事務局 部屋は使えるよね。

吉澤座長 私は、だから皆さんとのかかわりで、私があいていればいつでも。

事務局 夜でも。

吉澤座長 夜ね。でも夜出られないという人が出られるんじゃないの。

事務局 あと土曜日が出にくいとかあるかもしれません。

吉澤座長 また時間とってもだけれども、どの辺でしますか。

事務局 今絶対だめな日がある方はお聞きしておきます。

吉澤座長 絶対だめといっても昼間か夜かという問題もありますから。昼間と言うことでいいかな。

松永委員 6月の2週目以降ですよ。

事務局 3週目以降で。

この辺は地域センターの説明会等も間に入っておりますので、それとのかかわりも考えなければ。もし土曜日ということであればよろしいんですが。

吉澤座長 差し支えないというのが多いのは土曜日なんですか。かえって土曜日はだめという人もあるかもしれません。

合澤委員 だめ。

吉澤座長 だめ。月曜日。

合澤委員 はい、月曜日だったらと思うんですけども。

吉澤座長 というお話もあります。

私は構いませんけれども、今からだったら。だめな方いらっしゃいますか。

よろしいですか。2日ぐらいとっておいた方がよろしいでしょう。

事務局 はい。

吉澤座長 だから、じゃあ今の話だと21日になりますか。14日はだめでしょう。3週と言

ったらやっぱり 21 日ですか。

渡邊委員 21 日は出られないです。

事務局 14 日でも大丈夫なんですか。

吉澤座長 大丈夫ですか。

じゃあ 14 日。いいですか。14 日よろしいですか。

(「はい」の声あり)

吉澤座長 よろしいですか。月曜日ですけれども。

事務局 じゃあ鈴木委員が月曜日大丈夫だったら 14 日にしますが、鈴木委員が月曜日はだめと言うことであれば、もう 1 日予定をとっていただければありがたいと思います。今、ちょっと私の方でも把握してないので。

吉澤座長 もう 1 日。そうするともう 1 日というのは。

合澤委員 ここで時間は大体は決まりますか？

吉澤座長 午後からとか。

事務局 ご希望を伺って決めます。

吉澤座長 あともう一つというのはどこにしますか。

あくる日、水曜日。なかなか困ったもんですね。

事務局 それか 15 日の午前中というのもありますね。

吉澤座長 ああいいですね。午後はあるからね。

事務局 そのくらいだとちょうど半分、5 回終わっているんですね。

吉澤座長 そうですね。

今お話が出たのは 14 日の午後と 15 日の午前ですか。それでよろしいでしょうか。どっちかになりますか。

事務局 14 日の午後か……

金澤委員 12 時には終わりますよね。

事務局 10 時から 12 時に設定させていただいています、いつも。

金澤委員 民教が 1 時半から始まるから。

吉澤座長 場所どこですか。

金澤委員 若松のセンターです。

吉澤座長 ああそうか。

金澤委員 大丈夫です。12 時で終われば。

吉澤座長 じゃあそういうことでよろしゅうございますか。ちょっと時間を超過して恐縮でした。申しわけございませんでした。

では、よろしいですか。ありがとうございました。

事務局 では、また後でご連絡させていただきます。どうもありがとうございました。

吉澤座長 お願いいたします。

午後5時10分閉会